MINKABU THE INFONOID
株式会社　ミンカブソリューションサービシーズ
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は一進一退の動きか

［９月３０日からの１週間の展望］

－－

週間高低（カッコ内は日）　9月23日～9月27日

	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	143.88	146.49(27)	142.80(27)	143.20	-0.65
ユーロ・ドル	1.1159	1.1214(25)	1.1083(23)	1.1135	-0.0027

＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終値	前週末比		終値	前週末比
日経平均株価	39,829.56	+2105.65	日本10年債利回り	0.854	+0.004
ダウ平均株価	42,175.11	+111.75	米10年債利回り	3.796	+0.055

＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

３０日　日本８月鉱工業生産指数、日本８月小売業販売額
　　中国９月製造業ＰＭＩ、中国９月財新製造業ＰＭＩ
　　英第２四半期ＧＤＰ確報値
　　スイス９月ＫＯＦ先行指数
　　独９月消費者物価指数速報値
　　米９月シカゴ購買部協会景気指数
　　パウエルＦＲＢ議長講演
　　ラガルドＥＣＢ総裁議会証言
１日　日本８月雇用統計、日本８月有効求人倍率
　　日銀短観（９月調査）
　　豪８月住宅建設許可件数、豪８月小売売上高
　　スイス８月小売売上高
　　独９月製造業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏９月製造業ＰＭＩ確報値
　　英９月製造業ＰＭＩ確報値
　　ユーロ圏９月消費者物価指数
　　米９月製造業ＰＭＩ確報値
　　米９月ＩＳＭ製造業景況指数、米８月建設支出
　　米８月雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ）求人件数
　　米副大統領候補の共和党バンス上院議員と
　　　民主党のウォルズ・ミネソタ州知事の討論会
２日　ユーロ圏８月雇用統計
　　米９月ＡＤＰ雇用統計
３日　豪８月貿易収支
　　スイス９月消費者物価指数
　　独９月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏９月サービス業ＰＭＩ確報値
　　英９月サービス業ＰＭＩ確報値
　　ユーロ圏８月生産者物価指数
　　米新規失業保険申請件数
　　米９月サービス業ＰＭＩ確報値
　　米９月ＩＳＭ非製造業景況指数、米８月製造業受注
４日　スイス９月雇用統計
　　米９月雇用統計
　　カナダ９月Ｉｖｅｙ購買部協会指数
※中国市場は国慶節のため休場（１－７日）

－－

【前回のレビュー】今回のＦＯＭＣでの大幅利下げによる株高の影響でリスク選好の高まりがドル円の支援材料となりやすい。日銀による早期の利上げ観測はやや後退したも

のの、将来的な利上げ観測はドル円の上値を抑えやすいとみられる。こうした中、米経済指標の動向を眺めながら、ドル円は方向性を探る動きになるとした。

【米雇用統計など雇用関連指標に注目】
１７－１８日の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）、１９日の英中銀金融政策会合（ＭＰＣ）、１９－２０日の日銀金融政策決定会合と、中央銀行によるイベントを通過した。ＦＯＭＣでは０．５０％の利下げ、ＭＰＣや日銀会合では政策金利は据え置きとなった。イベント通過後はおおむね１４３－１４５円台のレンジで方向性を探る動きとなっている。

２３日には９月のフランス、ドイツ、ユーロ圏などの製造業やサービス業のＰＭＩ速報値が市場予想や前回値を下回る弱い結果となったことでユーロ売りの動きにつながった。ユーロ円が１６１円近辺から１５９円前後まで値を崩したことで、ドル円も上値の重い展開となり、１４３円台前半まで下落した。

２４日には日銀の植田総裁は講演して、「政策判断にあたり時間的な余裕がある」と早期の利上げに消極姿勢を示した。追加利上げに慎重姿勢を示したことで、円売りの動きとなり、ドル円は１４４円台後半まで上昇した。ただ買いが一服した後は下げに転じており、１４３円台前半まで下落した。その後、２５日の朝方に１４３円を割り込んでいる。

２５日から２６日にかけては米長期金利の上昇などを背景にドル買いの動きとなって、１４５円近辺まで上値を伸ばしている。２６日には米第２四半期ＧＤＰ確報値、米新規失業保険申請件数が良好だったことで、ドル買いの動きとなった。２７日には自民党総裁選の投開票が進む中、ドル円は１４６円台半ばまで上昇した。石破元幹事長が勝利したことを受けて、ドル円は１４６円台から１４２円台後半まで急激な円高が進行するなど大荒れの動きとなった。

９月３０日の週は米雇用統計などの注目度の高い指標が相次ぐ。１日に米９月ＩＳＭ製造業景況指数、米８月雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ）求人件数、２日に米９月ＡＤＰ雇用統計、３日に米新規失業保険申請件数、米９月ＩＳＭ非製造業景況指数、４日に米９月雇用統計など。米国ではインフレが落ち着きつつあることで、市場の注目は景気や雇用に移っている。

米経済指標の発表に一喜一憂する展開となりそうだが、一方的にドル買いやドル売りに傾くとは想定しにくい。一方、日銀は経済動向を眺めながら必要に利上げに動くものの、当面は急いで動く必要はないとみられる。新たな自民党執行部による政策が注目される中、円高の進行が警戒される。こうした中、ドル円は一進一退の動きを続けながら方向性を探る展開となりそうだ。ドル円の先の予想レンジは、１４０．００～１４７．００円。

日米の経済指標やイベントとしては、３０日に日本８月鉱工業生産指数、日本８月小売業販売額、米９月シカゴ購買部協会景気指数、１日に日本８月雇用統計、日本８月有効求人倍率、日銀短観（９月調査）、米９月製造業ＰＭＩ確報値、米９月ＩＳＭ製造業景況指数、米８月建設支出、米８月雇用動態調査（ＪＯＬＴＳ）求人件数、２日に米９月ＡＤＰ雇用統計、３日に米新規失業保険申請件数、米９月サービス業ＰＭＩ確報値、米９月ＩＳＭ非製造業景況指数、米８月製造業受注、４日に米９月雇用統計などがある。

【ユーロドルは方向性を探る展開か】
ユーロドルは１．１１台から１．１２台でのもみ合いが続いている。２３日には９月のフランス、ドイツ、ユーロ圏などの製造業やサービス業のＰＭＩ速報値の弱さから一時１．１１００ドル割れまで下落したものの、その後は上下に振幅しており、２５日には１．１２台前半まで上昇した。ただ、その動きも一服している。

欧州中央銀行（ＥＣＢ）による利下げは年内２回程度とみられている。すでに織り込みが進んでおり、欧米の経済指標や要人発言などに左右されやすい展開が見込まれる。最近のレンジを中心に上下に振幅して方向性を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．１０５０～１．１２５０ドル。

１９日の英金融政策委員会（ＭＰＣ）で政策金利は据え置きとなった。英中銀は年内に１～２回の利下げが見込まれている。１８日の英９月消費者物価指数でコア前年比が＋３．６%となり、前回値（＋３．３%）を上回った。インフレ警戒感は払しょくできておらず、今後の英経済指標やインフレ動向に左右されやすいとみられる。

ポンドドルは１１日の１．３０００ドル近辺から上昇を続けてきたこともあり、１．３４ドルに乗せた後は高値圏でもみ合いとなっている。ポンドはユーロやドルと比べて相対的に強い動きが見込まれるものの、過熱感も台頭しつつある。こうした中、一本調子で上値を伸ばすのは難しく、高値圏でのもみ合いが見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．３２００～１．３６００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、３０日に中国９月製造業ＰＭＩ、中国９月財新製造業ＰＭＩ、英第２四半期ＧＤＰ確報値、スイス９月ＫＯＦ先行指数、独９月消費者物価指数速報値、１日に豪８月住宅建設許可件数、豪８月小売売上高、独９月製造業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏９月製造業ＰＭＩ確報値、英９月製造業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏９月消費者物価指数速報値、２日にユーロ圏８月雇用統計、３日に豪８月貿易収支、スイス９月消費者物価指数、独９月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏９月サービス業ＰＭＩ確報値、英９月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏８月生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

＜著作権について＞
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。